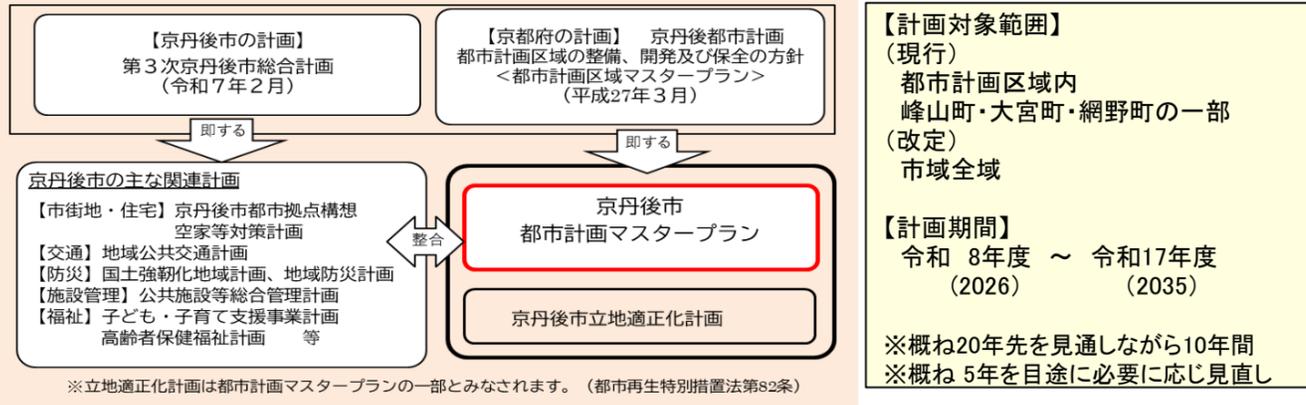


# 京丹後市都市計画マスタープランの概要

## 【都市計画マスタープランの位置づけ】



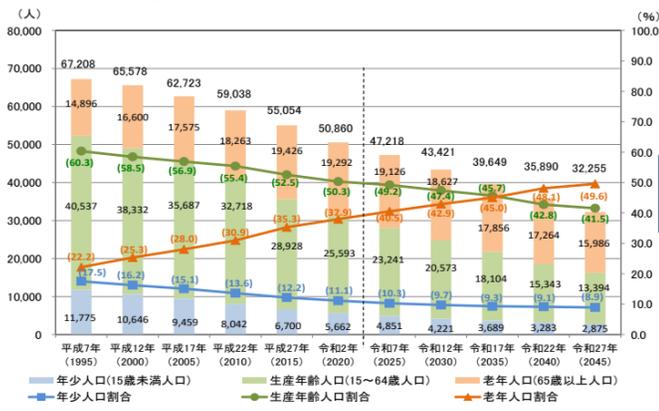
## 【まちづくりの課題】

本市の人口は、昭和25(1950)年の約8万3千人をピークに減少し続けています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和27(2045)年の推計人口は、令和2(2020)年に比べて約4割減の3.2万人に減少することが予測され、特に生産年齢人口は約1.2万人の減少が見込まれています。

- 人口減少を見据えた持続可能なまちづくり**  
市内各所において、さらなる人口減少・少子高齢化や人口の低密度化が進行することにより、これまでに確保されてきた生活サービスの水準が低下するだけでなく、機能が維持できなくなることが懸念
- 広く分散する居住地での豊かな暮らしを育むまちづくり**  
501.44km<sup>2</sup>の広い市域には225の集落が点在しており、一律に人口減少・少子高齢化が進行すると、身近な都市施設を維持することができなくなり、現在の生活利便性や地域コミュニティを維持することが困難
- 広域交通軸の整備と移動環境が充実したまちづくり**  
持続可能な都市を形成するため、定住人口、交流人口の確保・増加に向けて、山陰近畿自動車道などの広域交通網を活用しながら、人・物・情報の交流を拡大していくなど、まちの魅力を増進させる取り組みが必要
- 産業・地域経済の発展に向けたまちづくり**  
京丹後の農産物、機械金属産業と丹後ちりめん製品など工業製品、豊かな自然や食、温泉などを利用した誘客など、地域資源を活用した個性ある都市を目指し、山陰近畿自動車道の整備に伴う時間距離の短縮により、大都市圏との物流や交流の促進を図ることが必要
- 災害に対する安全なまちづくり**  
近年、集中豪雨や台風など水害や土砂災害のほか、巨大地震等による津波被害が想定されている。都府北部の丹後半島に位置し、周囲を山地と海で囲まれているため、防災・減災対策を図る必要

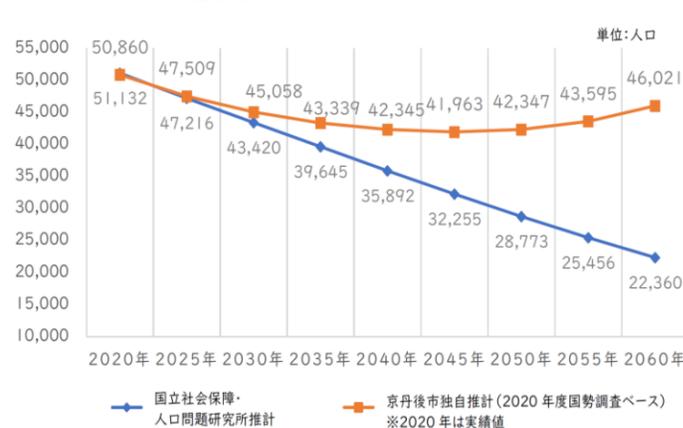
### <人口・世帯数の推移>

令和27の推計人口は、令和2年に比べて約4割減の3.2万人に減少することが予測される。



### 2060年の人口ビジョン 46,000人程度

総合計画及び関連計画の各施策や事業を組み合わせることによって4万6千を目指す。



## 【全体構想】

### 基本理念

自治と協働によって進めるまちづくり

### 目指すべき将来像

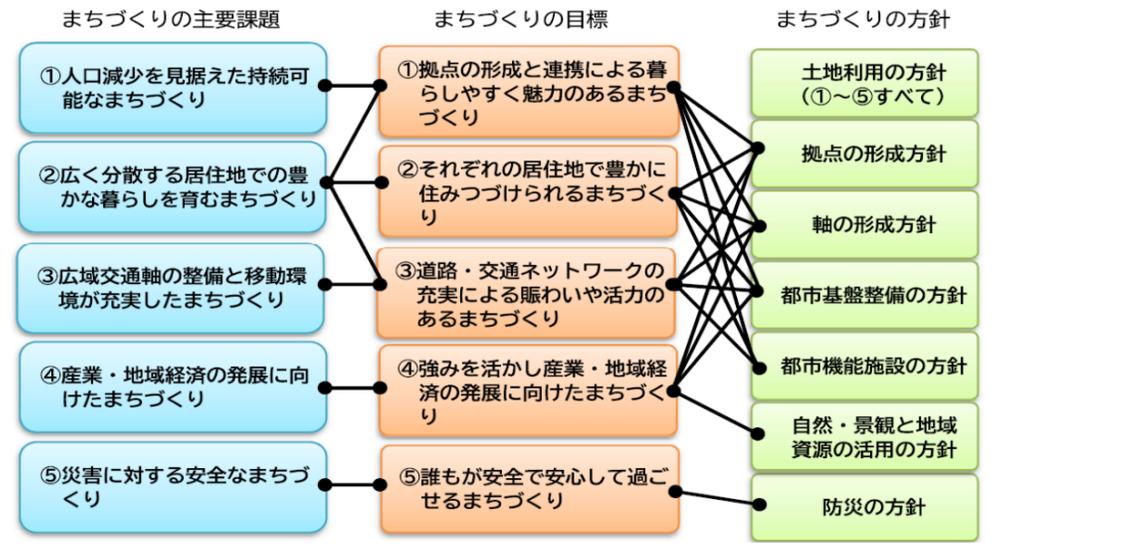
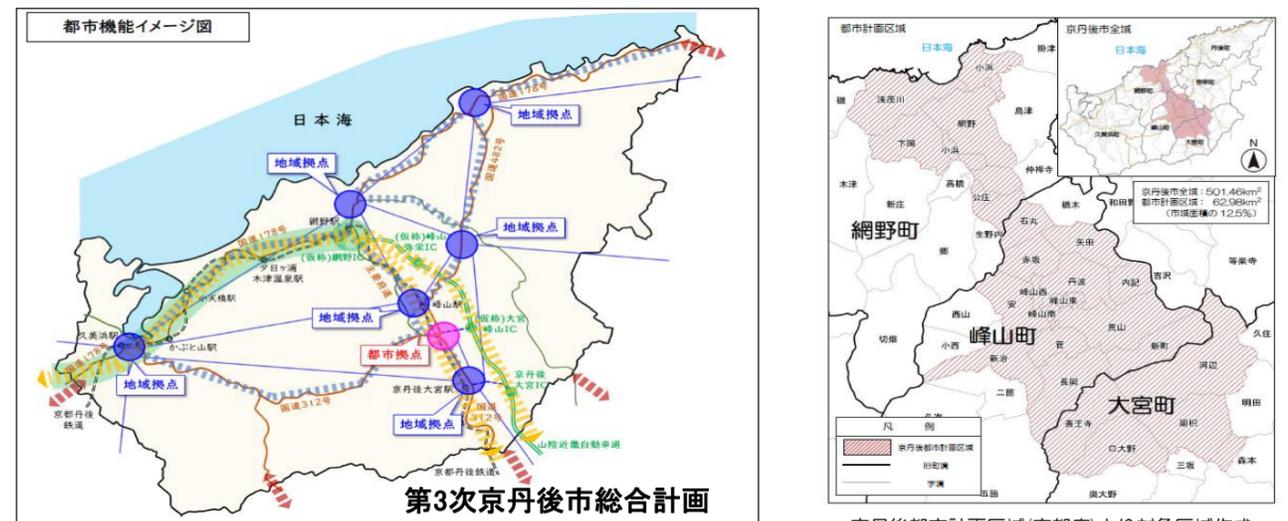
～大動脈とつながる大交流のまち 京丹後～  
多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型のまちづくり」

計画年次	推計人口
(計画策定から10年間) 令和8年(2026年)～令和17年(2035年)	2060年の人口ビジョン(46,000人程度) 令和17(2035)年 40,000人 (43,000人を目指す)

## 【まちづくりの目標】

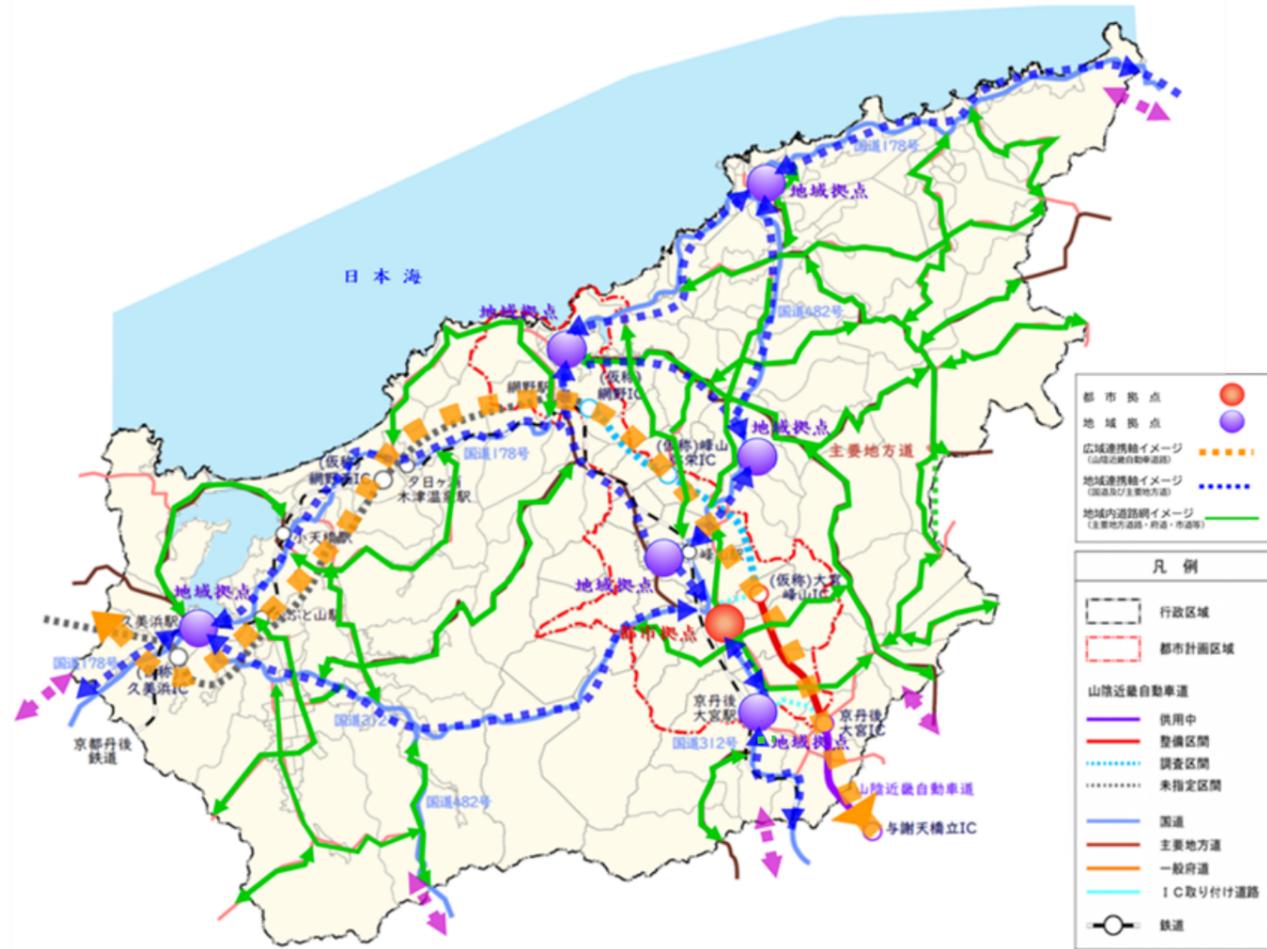
- ①拠点の形成と連携による暮らしやすく魅力のあるまちづくりの推進【都市拠点と6つの地域拠点】
- ②それぞれの居住地で豊かに住み続けられるまちづくり【日常生活機向上・地域コミュニティ活性化】
- ③道路・交通ネットワークの充実による賑わいや活力のあるまちづくり【広域連携軸と地域連携軸】
- ④強みを活かし産業・地域経済の発展に向けたまちづくり【地域活力の維持・向上】
- ⑤だれもが安全で安心して過ごせるまちづくり【防災・減災】

## 多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型まちづくり」



# 土地利用図とまちづくりの方針

図 将来都市構造(イメージ図)



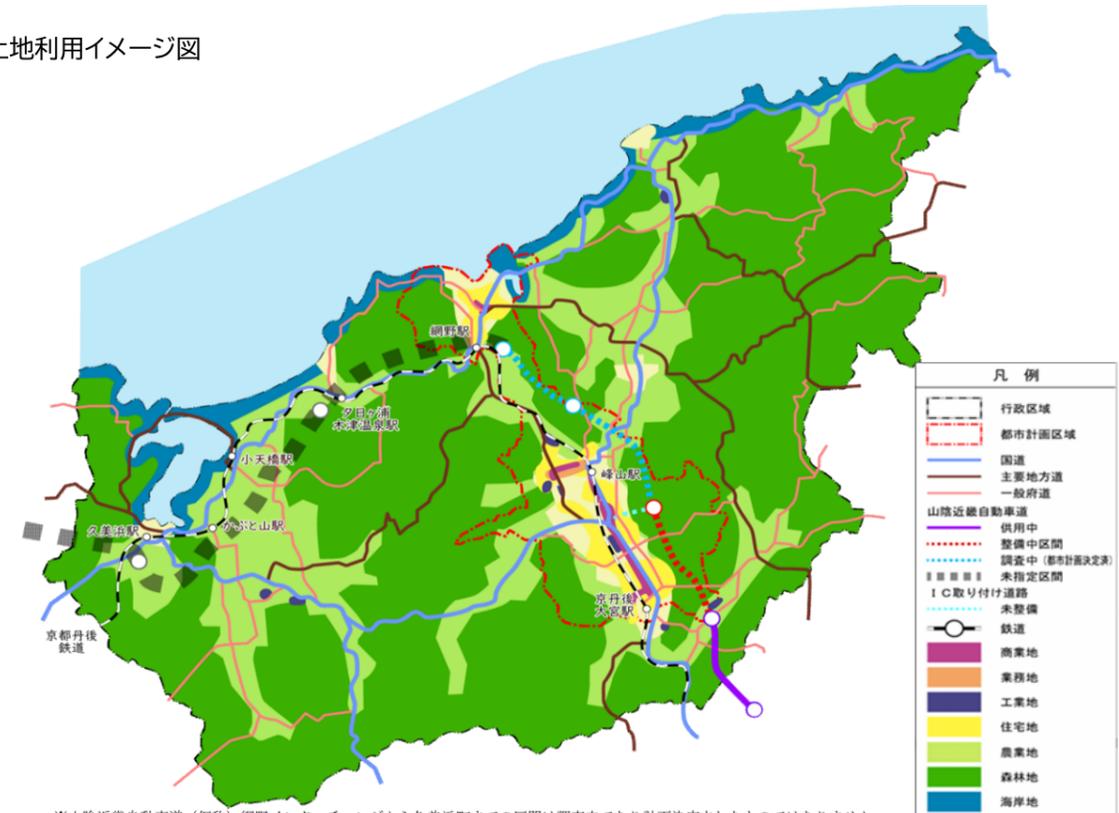
区分		形成の方針
拠点	都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、市外来訪者等の多様な人々の滞在・交流を促進し、新たな暮らし方・働き方に対応する拠点を形成します。既存商業機能に加え、子育て、商業、芸術文化、娯楽、交流など多くの人が集まる都市機能が集積されたエリアを形成します。</li> <li>国道312号と482号の交差点付近から商業機能の立地が進む国道312号沿線周辺部を都市拠点に位置付けます。市の新たな玄関口として、市域内外からのアクセスとしての交通結節機能として交通拠点の形成を目指します。</li> </ul>
	地域拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に必要な生活機能や居住機能の集積と都市機能の分担のほか地域資源を活かした各町の生活の拠点を形成します。</li> <li>各町の市民局周辺の市街地を地域拠点に位置付けます。</li> <li>各地域では、既存の街なみの風情や良さを活かし、また空家や公共跡地等も資源として活用し、街なみ全体に未来と伝統・歴史といった新旧の調和を取り入れていきます。</li> </ul>
軸	広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、鉄道、公共交通を広域連携軸に位置付けます。</li> <li>山陰近畿自動車道の全線開通を促進するとともに、市外と連携した公共交通により各地域へのアクセス性を高め、インターチェンジ周辺の交流支援機能の向上を図ります。</li> <li>公共交通等に加え、DXによるデジタルネットワークの連携を図り、リアルとデジタルの両面で各拠点を結ぶ多極ネットワークで、日常生活に必要なサービスの向上を目指します。</li> </ul>
	地域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道及び主要地方道、鉄道やそれを利用した公共交通を地域連携軸と位置付けます。</li> <li>国府道の整備促進や、空白地の無い公共交通の整備により、機能を補完する拠点間の連絡性の向上を図ります。</li> <li>主要地方道、一般府道、及び市道を利用して、生活機能を維持・確保するため、地域拠点と地域内の交通機能の向上を図ります。</li> </ul>

# まちづくりの方針

## 1 土地利用の方針

地域の持つ魅力ある資源や、自然的・歴史的・社会的な特性を活かし、都市拠点と地域拠点を形成し、拠点を「軸」としたネットワークとともに、高速道路によるアクセス性を活用し、観光・交流の推進や市内回遊性を高める土地利用を図ります。  
 都市的土地利用(住宅地、商業地などの市民の生活・経済活動の基盤)と自然的土地利用(農地、森林、海岸などの自然環境・農業基盤)との調和を図り、地域の持続可能で質の高い都市構造を目指します。

土地利用イメージ図



※山陰近畿自動車道(仮称)網野インターチェンジから久美浜町までの区間は調査中であり計画決定されたものではありません。

<b>(1) 都市的土地利用の方針</b>	
ア 商業地(商業集積の誘導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市拠点、地域拠点の商業地では、商業機能の集積を促し、地域活力の向上を促進します。</li> <li>用途地域の集積により商業機能の向上を促進します(都市計画区域内)。</li> </ul>
イ 業務地(行政サービスの効率化、利便性の向上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>官公庁施設の立地する業務地は、行政サービスの効率化・利便性の向上し業務地としての機能を高めます。</li> </ul>
ウ 工業地(産業振興を通じた地域雇用の維持・拡大)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存工業団地の企業立地を継続し、活力のある生産活動の維持・向上を図ります。</li> <li>用途地域の指定により産業機能の向上を促進します(都市計画区域内)。</li> </ul>
エ 住宅地(住環境の維持)	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な住環境の形成を図ります。</li> <li>用途地域の指定の適否の検討、特別用途制限地域などを検討します(都市計画区域内)。</li> <li>既存市街地の基幹産業の工場と住宅が混在する地域は、工業機能と居住地の共生として特定用途制限地域などを検討します(都市計画区域内)。</li> </ul>
<b>(2) 自然的土地利用の方針</b>	
ア 農業地	<ul style="list-style-type: none"> <li>良質多様な農産物を活用した農業の振興と集落環境の維持・向上を図ります。</li> <li>滞在・体験型農業などによる交流の場、憩い、ふれあえる空間の形成を促進します。</li> <li>集落地背後の里地・里山の保全に努めます。</li> </ul>
イ 森林地	<ul style="list-style-type: none"> <li>北近畿最大級のブナ林をはじめとする豊かな自然環境や山並みなど景観保全に努めます。</li> <li>さまざまな自然学習・体験の場として活用を図ります。</li> </ul>
ウ 海岸地	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸・久美浜湾に沿った海岸地の景勝地や温泉、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの活用を図り、国内外の人々の交流を促進します。</li> </ul>

# 拠点の方針と軸の方針

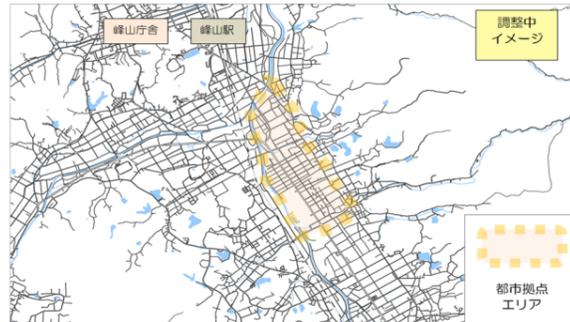
## 2 拠点の方針

人口減少下においても市民生活の利便性確保と市域全体の持続的な発展を両立するため、広域連携・交流の拠点の整備と、市民生活を支える地域振興機能の維持・向上を図ります。

### 【都市拠点】

国道312号と国道482号沿いの市街地を位置付け、都市機能を増進する土地利用の誘導を図り、商業機能に加え、子育て、文化、芸術、娯楽、交流、行政サービスなど多様な高次都市機能の複合的な集積と交通結節機能を推進することで、市民が質の高い多様なサービスを受けられる生活環境の形成を目指します。

### 【都市拠点】



### 【地域拠点】

市内各町の市民局周辺市街地を位置づけ、住民生活に不可欠な医療、子育て、福祉、商業、金融、公共サービスなどの生活維持機能の優先的な確保・維持と都市機能の分担の推進を図ります。さらに、地域固有の資源を活用した観光・産業などの地域振興機能を充実させることで、地域住民が日々の暮らしに安心と利便性を感じられる生活基盤の形成を目指します。

### 【峰山地域拠点】



### 【大宮地域拠点】



### 【網野地域拠点】



### 【丹後地域拠点】



### 【弥栄地域拠点】



### 【久美浜地域拠点】



## 3 軸の方針

道路と公共交通のネットワーク整備により、人・モノ・ことの流動、アクセス性、防災性を向上させ、総合計画で掲げる「大交流のまちづくり」と「多極ネットワークによる一体型のまちづくり」の具体化を図ります。

### 【広域連携軸(市外との接続)】

山陰近畿自動車道の早期全線開通を強力に促進し、市外都市部との時間距離を短縮する「大交流のまちづくり」の強固な基盤確立を目指すとともに、インターチェンジ(IC)周辺において、アクセス道路の整備と交流支援機能の向上を一体的に図ることで、IC機能が都市拠点および地域拠点へスムーズに直結するネットワークを実現します。

### 【地域連携軸(市内連携)】

国道及び主要地方道の整備促進により、拠点間と市域外への連絡性、交通の利便性、地域経済活性、災害時のリダンダンシーを向上させるとともに、幹線道路の渋滞緩和と生活道路環境の保全に配慮した都市計画道路の見直しを進め、さらに地域資源や観光拠点へのアクセス道路整備を通じて個性あるまちづくりを支援します。

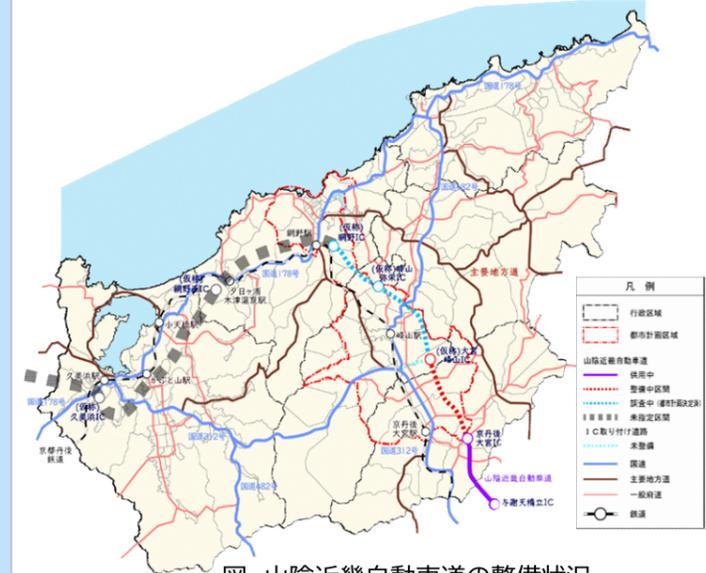


図 山陰近畿自動車道の整備状況

### 【公共交通の確保と充実】

鉄道やそれを利用した公共交通を地域連携軸に位置付け、DX(デジタル技術)を活用したデジタルネットワークとの連携を図りながら、道路ネットワークとも連携した効率的かつ持続可能な公共交通システムを構築することで、「空白地のない公共交通の整備」と多極ネットワークの強化を目指します。

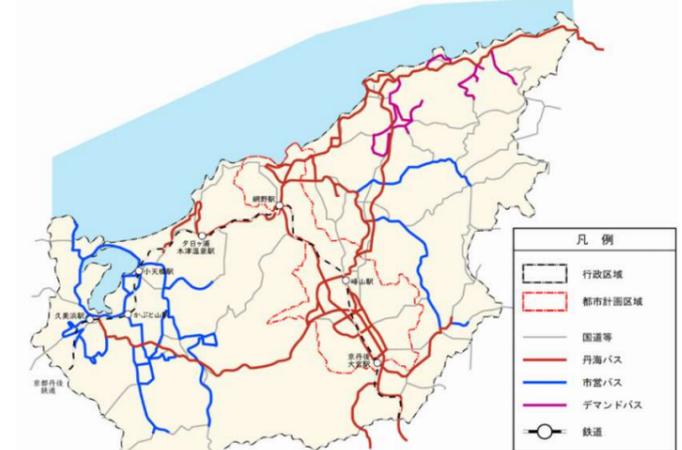
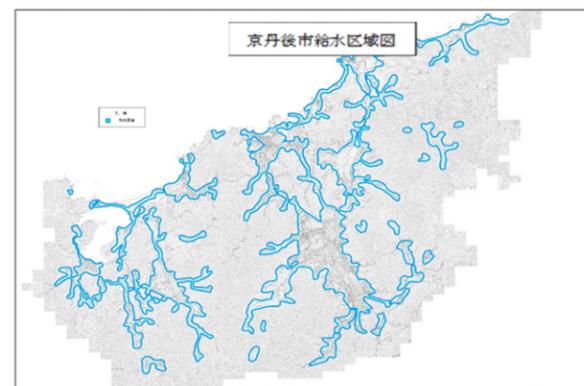


図 鉄道・バス路線

## 4 都市基盤整備の方針

市民の安全安心な生活と都市機能の維持・向上、良好な住環境の確保を支えるため、地域の持続的な発展と雇用機会の創出に資する産業基盤の整備を推進するとともに、住宅の安全性や耐震性の向上、多様な住宅ニーズへの対応を図ります。また、上下水道、河川・海岸、処理施設(ごみ、し尿、最終処分場等)といった全ての生活関連基盤について、施設の長寿命化と老朽施設の計画的な更新を推進し、安定的かつ効率的にサービスを提供できる体制を維持・確保することで、公共用水域の水質保全と公衆衛生の確保、国土の保全を目指します。



# 拠点の方針と軸の方針

## 5 都市機能施設の方針

次代を担う子どもたちの健やかな成長と、誰もが尊重され生きがいを持てる健康長寿のまちづくりに貢献するため、拠点等の役割に応じた機能配置や施設間の連携強化、安全性・利便性の確保を図ることで、持続可能な都市機能の充実を目指します。



### 【市域、地域拠点、都市拠点への立地誘導】

主な都市機能	配置(立地誘導)			備考
	市域	地域拠点	都市拠点	
商業	ショッピングセンター等規模のある商業施設	○	◎	市全域を対象とした規模の高次都市施設を主に都市拠点に誘導
	ホームセンター、食品スーパー等の規模の商業施設	◎	○	日常生活を支える買い物機能として主に地域拠点に誘導
	個別店舗(コンビニなど)	○	○	住民の身近な買い物機能であるため市全域
医療	病院	○	○	広大な市域をカバーするため地域拠点に誘導
	診療所	○	◎	各地域の医療確保のため主に地域拠点に誘導
福祉	福祉サービス施設	○	○	送迎を伴うもの(市域全体で立地)
	保健センター、こども家庭センター等	○	○	日常生活圏として各拠点に誘導
	地域子育て支援センター	○	○	地域の状況に応じた誘導
	こども園等	○	○	保育所再編推進計画による立地(市内各地)
	放課後児童クラブ	○	○	小学校校舎等でのサービス提供(市内各地)
文化	図書館	○	○	市全域を対象とした都市施設を都市拠点に誘導
	中央図書館	○	○	身近な図書サービス機能として地域拠点に誘導
	図書館・室	○	○	身近な図書サービス機能として地域拠点に誘導
	文化ホール・コンパニオン施設	○	○	高次の都市施設として拠点に誘導
教育	交流施設(地域公民館等)	○	○	地域の交流場所として地域拠点に誘導
	小・中学校	○	○	学校適正配置基本計画による立地(市内各地)
	高等学校	○	○	環境に応じたものとして市全域の立地誘導
金融	大学・専修学校等	○	○	環境に応じたものとして市全域の立地誘導
	銀行等	○	○	金融機能として拠点に誘導
行政	郵便局	○	○	日常生活を支える機能として市内各地に立地誘導
	市庁舎(窓口)	○	○	行政機能として拠点に立地
	府庁舎(窓口)	○	○	行政機能として拠点に立地
公共交通	国庁舎(窓口)	○	○	行政機能として拠点に立地
	鉄道駅	○	◎	交通機能として拠点に立地誘導(環境に応じ市域)

## 6 自然・景観と地域資源の活用の方針

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの豊かな自然環境や歴史文化遺産を、海・森・里山がつながる貴重な地域資源として厳正に保護・保全します。これらの資源を最大限に活かし、通年型観光地としての魅力を高めることで、交流人口の拡大と地域経済の持続的な活性化を図ります。さらに、カーボンニュートラルの実現を目標に掲げ、自然環境への影響を考慮しながら再生可能エネルギーの地産地消など脱炭素化を推進することで、良好な地域資源を未来へ継承する強靱なまちづくりを目指します。

### (1) 地域資源の保全・活用方針

項目	地域資源の保全・活用の方針
ア 山地・里山等の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰海岸国立公園及び丹後天橋立大江山国定公園区域をはじめ、京都府条例に基づく権現山保全地域や丹後上世屋山保全地域の歴史的遺産と自然環境の保全を図ります。</li> <li>水源涵養機能、山地災害防止機能等、森林が持つ公益的機能別の環境整備に努めます。</li> <li>森林経営管理制度を活用し、林業経営に取り組みやすい環境整備の推進に努めます。</li> </ul>
イ 農林水産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産基盤の安定化と農地集積を推進するため、スマート農業や大型機械の導入が可能なほ場整備、および農業用施設等の基盤整備・長寿命化を進めます。</li> <li>森林整備事業などによる適正な森林管理を通じて、里地・里山の健全な保全に努め、農村環境を持続的に後世につなぎます。</li> <li>漁業生産基盤の安定化を図るため、スマート水産業を推進するとともに、漁港施設の基盤整備・長寿命化を進めます。</li> </ul>
ウ 観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光開発においては、地域住民や自然環境に配慮し、地域と観光客が共存できる持続可能な観光の推進を図ります。</li> <li>山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの多彩な海岸地形や、日本遺産認定「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」の織物業など、地域の歴史と特色を活かした観光を展開します。</li> <li>通年型観光地の実現に向け、既存施設の魅力向上や新たな観光拠点・体験交流施設等の整備・維持を推進します。</li> </ul>
エ 歴史文化遺産、自然遺産の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域振興を図るため、「京丹後市文化財保存活用地域計画」に基づき、丹後の歴史文化遺産、自然遺産を適切に保存するとともに、活用に向けた環境整備を計画的に推進します。</li> </ul>

### (2) 環境保全の方針

項目	環境保全の方針
ア 脱炭素(再生可能エネルギーの導入促進と設備導入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源を最大限に活かした再生可能エネルギーの導入を促進し、地産地消や自立・分散型電源としての利活用の支援や、高効率なエネルギー設備・機器の導入を推進します。</li> </ul>
イ 循環型社会(先進的な資源化・処理体制の整備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の発生抑制と再資源化を推進するための施設整備を図り、環境への負荷が少ない持続可能な循環型社会の実現を目指します。</li> <li>先進事例及び仕組みの導入などによる新たな分別・資源化排出の検討を進め、循環型社会の実現を促進します。</li> </ul>

### (3) 景観形成の方針

項目	環境形成の方針
ア 景観資源(魅力的景観の保全と景観資産の整備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰海岸ユネスコ世界ジオパークに代表される海や山、長い年月をかけて形成された街なみなど魅力ある景観の保全・形成を図ります。</li> <li>景観資産等に登録・選定されている文化的景観(久美浜湾の牡蠣棚、海岸景観等)の保護・保全に努めます。</li> </ul>
イ 住民主体の景観形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>京丹後市住民協定景観形成条例による景観協定などの制度を通じて、市民が主体となった地域</li> </ul>

## 7 防災の方針

国・府と緊密に連携し、水害や土砂災害を抑制・軽減するための強固な都市基盤整備を推進するとともに、消防・救急体制の充実と災害拠点機能の強化を図ります。また、災害リスクの高い地域における土地利用のコントロールにより、より安全な地域へ居住や都市諸機能を誘導することで、市民の安全確保を図り、被害を最小化する強靱なまちを目指します。

### (1) 防災の方針

項目	防災の方針
ア 施設・建築物の防災機能確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の防災拠点となる庁舎や消防庁舎の機能継続対策を図ります。</li> <li>災害時の防災拠点等と位置付けられる公益性の高い建築物の耐震改修を促進します。</li> </ul>
イ 広域的な重要施設と基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害防止施設、漁港海岸保全施設の整備を計画的に進め、水害・土砂災害・津波被害の抑制と軽減を図ります。</li> </ul>
ウ 危険区域における安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害や津波などの災害リスクが高い地域においては、被害防止の観点から、新たな住宅等の立地を抑制する施策を講じ、市民の安全確保を図ります。</li> </ul>

### (2) 消防整備の方針

項目	消防施設の方針
消防整備の	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時にも中核的な役割を担えるよう、消防施設における非常用電源の確保など、業務継続計画(BCP)を支えるための災害拠点機能の維持・強化を図ります。</li> <li>消防庁舎および分署について、老朽化対策等を進め、活動拠点としての機能確保を図ります。</li> <li>ドクターヘリコプターの活用を推進するため、未整備地区への場外ヘリポートについて整備を検討します。</li> <li>消防団活動に必要な施設・車両・装備の更新・適切な維持管理を行い、消防体制の充実・強化を図ります。</li> </ul>

# 1) 地域別構想 (峰山地域)

## (1) 地域の概要

項目	内容	
人口 (国勢調査)	平成27(2015)年	12,028人
	令和2(2020)年	11,337人 691人減少(△5.7%)
面積	67.40 km <sup>2</sup>	
地形及び立地状況等	<p>峰山地域の市街地には小西川が流れるほか、市内を南北にまたぐ竹野川が近くに流れるなど、うるおいのある市街地を形成しています。</p> <p>竹野川沿いや峰山駅周辺では、農地や周辺の丘陵部付近まで宅地化が進んでおり、近年では国道312号付近での宅地化も進んでいます。</p> <p>既存市街地は、市役所などの行政サービスのほか、事業所や商店街などの商業店舗が多く立地しており、これまでから峰山地域の中心市街地としての役割を果たしています。</p> <p>近年は、国道312号、国道482号沿いで大型店舗等のロードサイド型店舗の立地が進んでおり、市内最大の商業施設が立地しています。</p>	
地域の特徴	<p>市内でも工業生産が盛んで、赤坂工業団地など機械金属製造業や、絹織物産業(丹後ちりめん)が中心的な産業となっていますが、近年、繊維産業の縮小傾向は顕著です。</p> <p>主要地方道網野峰山線沿いには古くから商業地が形成され、御旅市場や金刀比羅神社門前町、また丹後震災記念館周辺などの歴史的な建物や街なみが残されていますが、近年は、商業機能の空洞化が進行しています。</p> <p>市民の健康スポーツの拠点である峰山総合公園が近接し、周辺には同様の機能を持つ峰山途中ヶ丘公園が立地しています。</p>	

## (2) 拠点方針

項目	方針
都市拠点	市全域に波及するサービス機能として大型商業施設のほか国道312号及び国道482号沿道でロードサイド方など主に商業地機能の維持向上を図り、既存市街地である地域拠点との役割分担を図ります。
地域拠点	<p>峰山駅から市街地の地域拠点では、商業地・業務地・住宅地として、生活サービス機能を維持・充実し、居住空間の形成を図ります。</p> <p>地域住民・周辺地域の暮らしを支えるため行政の効率化と行政サービスの利便性向上を推進します。</p>

## (3) 地域の土地利用方針・取組

項目	取組
土地利用	用途地域等の活用により商業・工業等の振興と土地利用の誘導を図ります。機械金属製造業等が立地する工場地では、工業系土地利用の維持充実を図ります。
道路交通網	<p>(仮)大宮峰山ICアクセス道路(都)峰山インター線を関係機関と調整促進します。</p> <p>(仮)峰山弥栄ICアクセス道路を関係機関と調整し促進します。</p> <p>国道312号五箇バイパスの整備について関係機関と調整して促進します。</p> <p>(一)掛津峰山線丹波バイパスの整備について関係機関と調整し促進します。</p> <p>緊急輸送道路を補完する市道杉谷安線の拡幅改良について取り組みます。</p> <p>峰山総合公園、峰山途中ヶ丘公園等の活用を促進します。</p>
都市機能施設、産業、環境	<p>市街地の空き家や空き地を有効に活用し、ゆとりあるまちなか空間の形成を図ります。</p> <p>赤坂工業団地等の既存の工業立地の維持・向上を図ります。</p> <p>良質な農産物を活用した農業の振興と集落環境の維持・向上を図ります。</p> <p>金刀比羅神社周辺の歴史資源を活用し、散策が楽しめる歩行空間の創出を形成します。</p> <p>日本の稲作発祥と伝えられる「月の輪田」を観光資源として活用します。</p>
都市基盤	<p>竹野川及び小西川の河川改修を関係機関とともに促進し、安全で災害に強い市街地の形成を図ります。</p> <p>公共下水道の整備を推進し、早期の完了に努めます。</p>

## ■地域の主な取組

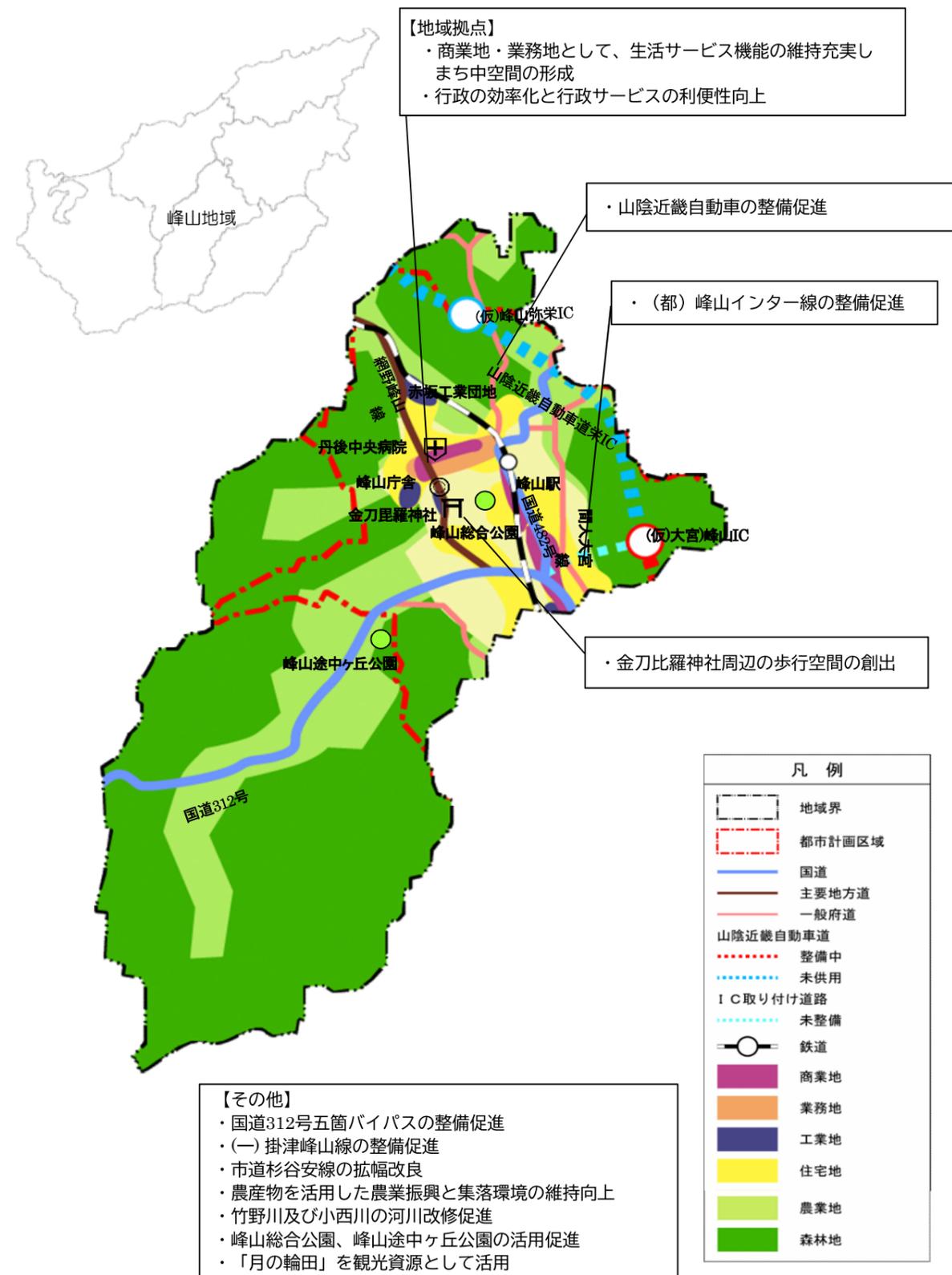


図 峰山地域の土地利用図

## 2) 地域別構想 (大宮地域)

### (1) 地域の概要

項目	内容	
人口 (国勢調査)	平成27(2015)年	10,122人
	令和2(2020)年	9,575人 547人減少(△5.4%)
面積	68.87 km <sup>2</sup>	
地形及び 立地状況等	大宮地域は、竹野川沿いに集落や農地が形成されています。	
	京丹後大宮駅前の市道周辺(口大野)には商業地が形成されていたものの、国道312号の整備に伴いロードサイド型店舗の集積が進み、鉄道周辺にある旧商店街の商業機能は、近年縮小や空洞化が進んでいます。	
	森本工業団地では、京丹後大宮ICの開通(平成28(2016)年10月)以降、4社が企業立地し、地域経済の活性化、新たな雇用の創出に繋がっています。	
地域の特徴	ほ場整備がなされた後に農業振興地域農用地が指定解除された善王寺や周枳地区では、小規模な戸建住宅開発が進行しています。	
	大宮地域は農業を中心とする地域で、水田耕作のほか平野部の丘陵地帯には、国営開発農地(畑作)が整備されています。また、絹織物産業のほか、清水工業団地などには、機械製品製造業が立地しています。	
	大宮賣神社などの歴史資源が点在するほか、大宮自然運動公園などの地域性を活かした公園の整備が行われています。	
大宮地域の中央部に、まちの骨格を形成する竹野川が流れ、河川沿いの遊歩道などのおいのある市街地を形成しています。この竹野川の上流部には、内山ブナ林など自然度の高い環境が残されています。		

### (2) 拠点方針

項目	方針
都市拠点	市全域に波及するサービス機能として大型商業施設のほか国道312号及び国道482号沿道でロードサイド方など主に商業地機能の維持向上を図り、既存市街地である地域拠点との役割分担を図ります。
地域拠点	大宮庁舎周辺の竹野川から国道312号にかけての市街地の地域拠点は、商業地・居住地として、生活サービス機能の維持・充実し、居住空間の形成を図ります。
	国道312号沿道には、商業施設の誘導を図り、地域拠点の周辺では、良好な住宅地の維持・向上を目指します。

### (3) 地域の土地利用方針・取組

項目	取組
土地利用	用途地域等の活用により商業・工業等の振興と土地利用の誘導を図ります。
	森本工業団地や清水工業団地では、工業系土地利用の維持・充実を図ります。
	国道312号沿道には、商業施設の誘導を図ります。
道路交通網	平地等の農業地、国営農地開発地では、農業振興を基本とした土地利用を図ります。
	生活機能を維持確保し、地域拠点と地域内の交通機能の向上を図るため、国道及び主要地方道等の整備促進を関係機関と調整し推進します。
	大宮峰山道路(山陰近畿自動車道)の早期完成を促進し、国道312号等の道路交通の円滑化について関係機関と調整し促進します。
都市機能施設、 産業、環境	森本工業団地等の既存の工業立地の維持・向上を図ります。
	市街地の空き家や空き地を有効に活用し、ゆとりあるまちなか空間の形成を図ります。
	地域住民の健康増進のため、大宮自然運動公園の維持・保全に努めます。
	竹野川の最上流部として、環境に配慮し、市街地の背景となる里山や山林の保全を通じて、良質な農産物を育む農業を基軸とした地域づくりを推進します。
都市基盤	内山ブナ林のトレッキングルート化などネイチャーツーリズム造成に取り組みます。
	小町公園、農業体験、農家民泊、温泉等と、地域の歴史や文化、産業、暮らしをコンテンツとし人とふれあえるツーリズムを推進します。
公共下水道の整備を推進し、早期の完了に努めます。	

### ■地域の主な取組

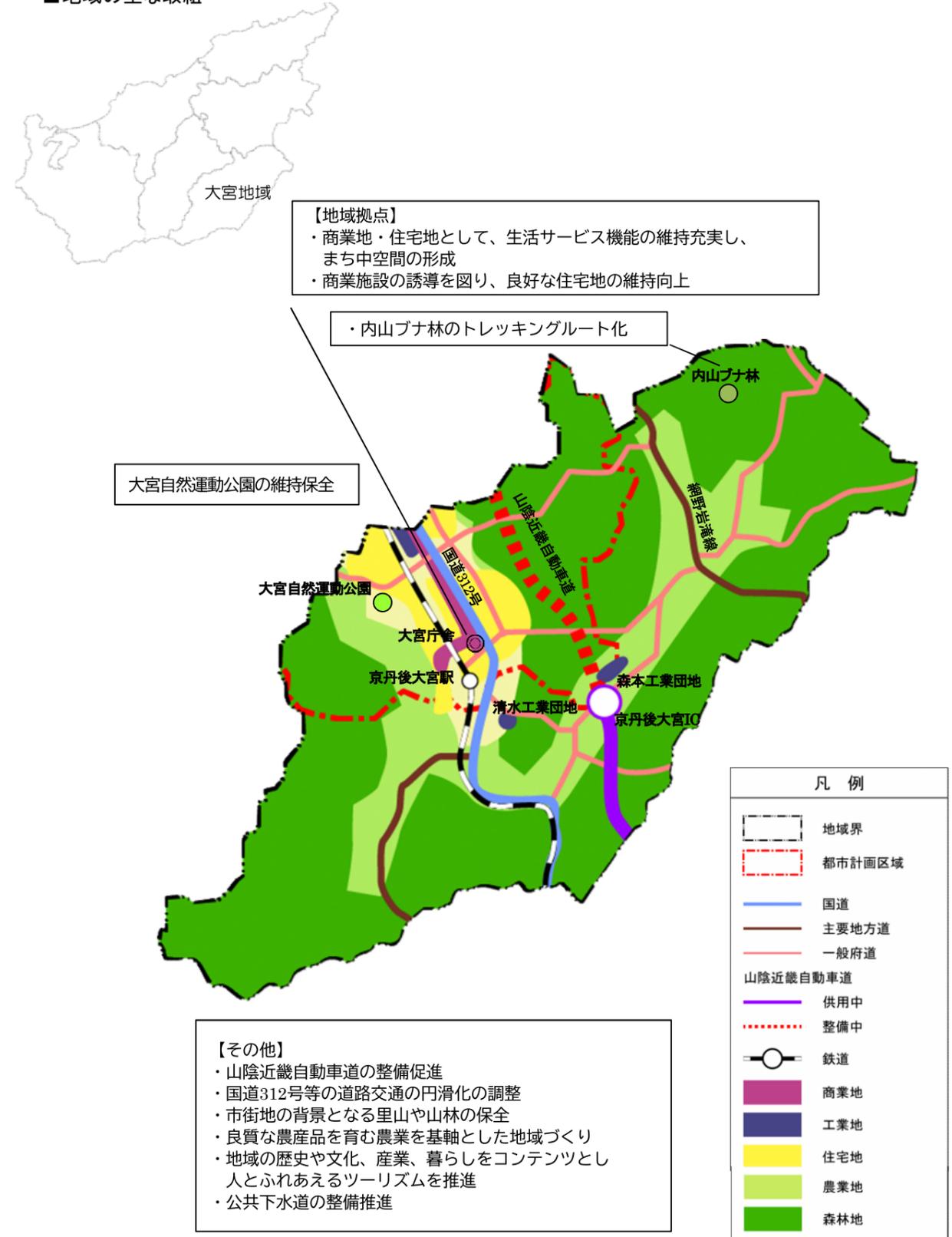


図 大宮地域の土地利用図

### 3) 地域別構想 (網野地域)

#### (1) 地域の概要

項目	内容	
人口 (国勢調査)	平成27(2015)年	12,931人
	令和2(2020)年	11,778人 1,153人減少(△8.9%)
面積	75.01 km <sup>2</sup>	
地形及び立地状況等	<p>市街地は八丁浜で日本海に接し、琴引浜や離湖が近接するほか、福田川が市街地に隣接するなど、沿岸のうるおいのあるまちを形成しています。</p> <p>市街地内には、小売店舗を中心とした商店街が形成されており、近年、峰山地域と大宮地域のロードサイド型店舗の増加などもあり空洞化の傾向にあります。</p> <p>八丁浜シーサイドパークは、海洋レクリエーションや健康スポーツの拠点として活用されています。</p> <p>福田川の浸水被害の解消に向けた内水対策等の取り組みが進められています。</p>	
地域の特徴	<p>網野地域は絹織物産業(丹後ちりめん)の主要な産地ですが、近年縮小傾向でまちなかの機業地の空洞化が進んでいます。</p> <p>府下有数の観光温泉地(夕日ヶ浦、木津、掛津)であり、旅館、ホテル、民宿が集積し、冬場のカニシーズンや夏場の海水浴シーズンには、多くの観光客が訪れています。</p> <p>史跡として整備された網野銚子山古墳や、ちりめん機屋の街なみなどが、歴史文化のまちのイメージを形成しています。</p>	

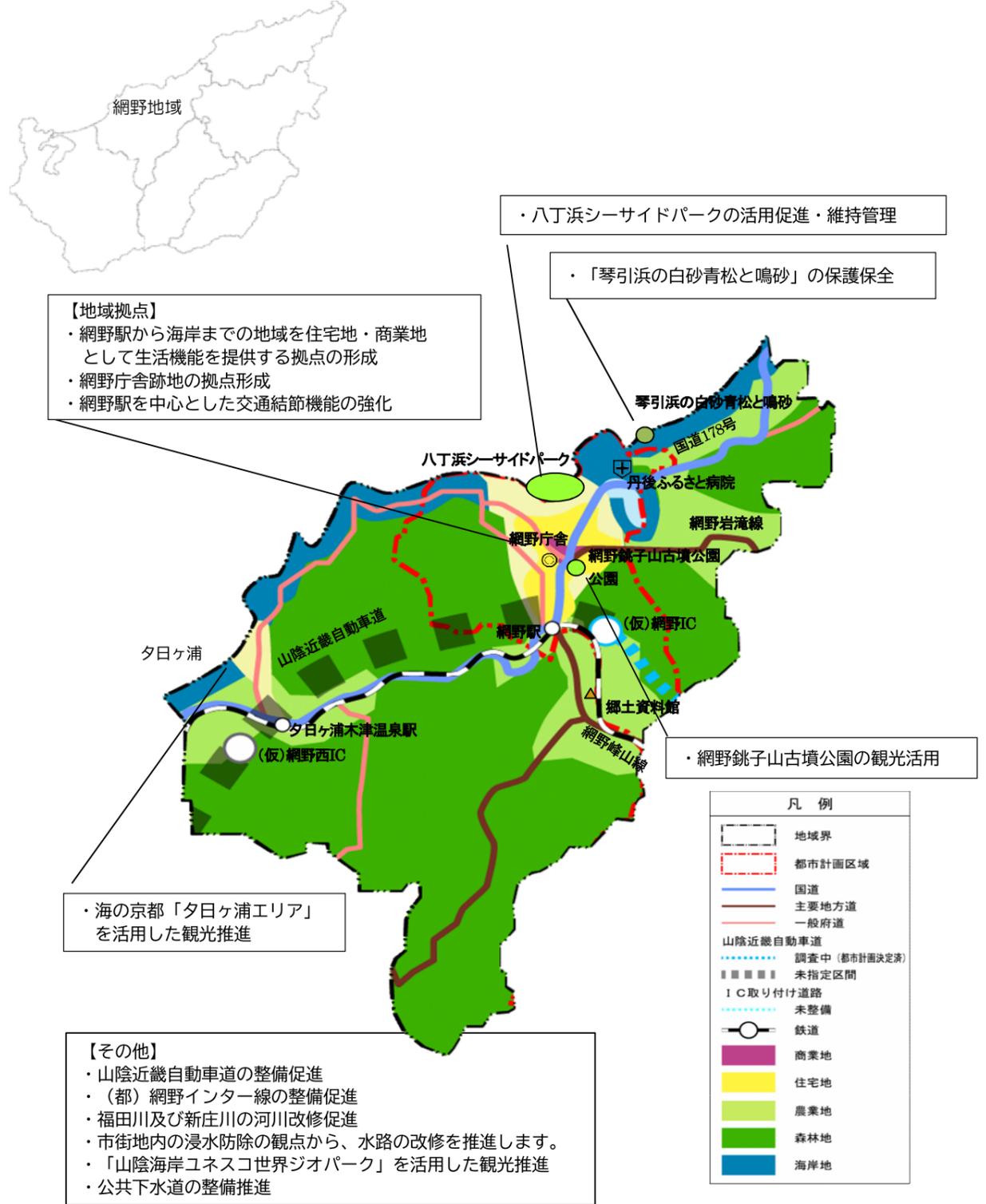
#### (2) 拠点方針

項目	方針
地域拠点	<p>網野駅から海岸までの地域を住宅地・商業地として、生活サービス機能を維持・充実し、市内最大の市街地としてのまち中空間の形成を図ります。</p> <p>基幹産業の職住近接や海辺のまちとして、地域で生活し活動するために必要なサービスや施設など都市機能の維持向上を図ります。</p> <p>網野駅周辺の交通結節機能の強化とまちなか観光との連携を図ります。</p>

#### (3) 地域の土地利用方針・取組

項目	取組
土地利用	<p>用途地域等の活用により商業・工業等の振興と土地利用の誘導を図ります。</p> <p>基幹産業の工場と住宅が混在する地域は、工業機能と居住地の共生を図ります。</p> <p>美しい海岸線等自然景観を保全し、観光振興を図ります。</p>
道路交通網	<p>山陰近畿自動車道の(仮)大宮峰山ICから(仮)網野ICまでの区間について、関係機関と調整し早期に事業化されるよう促進します。</p> <p>山陰近畿自動車道の網野から久美浜間の早期ルート決定及び早期事業化を関係機関と調整し促進します。</p> <p>山陰近畿自動車道にアクセスする(都)網野インター線の整備を関係機関と調整し促進します。</p> <p>都市計画道路については、必要性・道路現状・交通状況を踏まえて見直します。</p>
都市機能施設、産業、環境	<p>網野庁舎跡地を活用し交流と賑わいの拠点を形成します。</p> <p>既存市街地の空き家や空き地を有効に活用し、ゆとりあるまち中空間の形成を図ります。</p> <p>八丁浜シーサイドパーク等余暇活動の拠点の形成と維持管理に努めます。</p> <p>網野銚子山古墳公園(史跡・特殊公園)を活用した観光を促進します。</p> <p>海の京都「夕日ヶ浦エリア」、「琴引浜・間人交流地区」や「山陰海岸ジオパーク」を活用した観光を推進します。</p> <p>景観資産に登録されている「琴引浜の白砂青松と鳴砂」の保護・保全に努めます。</p> <p>良質多彩な農産物を活用した農業の振興と集落環境の維持・向上を図ります。</p>
都市基盤	<p>福田川及び新庄川の河川改修を関係機関とともに促進し、安全で災害に強い市街地の形成を図ります。</p> <p>市街地内の浸水防除の観点から、水路の改修を推進します。</p> <p>公共下水道の整備を推進し、早期の完了に努めます。</p>

#### ■地域の主な取組



※山陰近畿自動車道(仮称)網野インターチェンジから久美浜町までの区間は調査中であり計画決定されたものではありません。

図 網野地域の土地利用図

## 4) 地域別構想 (丹後地域)

### (1)

項目	内容	
人口 (国勢調査)	平成27(2015)年	5,316人
	令和2(2020)年	4,657人 659人減少(△12.4%)
面積	64.89 km <sup>2</sup>	
地形及び 立地状況等	丹後地域は本市の東部に日本海に面して位置し、国道178号により市内他地域や市外へ連絡しています。地域の大半は、山地で占められており、西部の間人漁港周辺に市街地が形成されるほか、海岸線に並走する国道178号沿道に漁村集落が点在しています。	
	リアス式海岸の沿岸に市街地や集落が形成され、中心的な間人地区では、間人漁港を中心とした傾斜地沿いに古くからの漁村集落が拡大してきたため、建物の密集度が高く、狭隘な道路が多くみられます。	
	間人の集落周辺住民を対象に小規模な商業施設が立地していますが、買い物は他地域に依存している傾向にあります。	
	集落地内の建物の多くが海風の強い地域性を反映して、杉下見板張の様式の建築が数多く、特徴的な景観を形成しています。急傾斜地では過去に土砂災害が発生し、急傾斜地対策事業が実施されています。	
地域の特徴	間人漁港をはじめとした漁業が盛んで、「間人ガニ」が地域ブランドとして知名度が高く、観光客を集める資源ともなっています。	
	これまで、絹織物産業(丹後ちりめん)の出機が多く見られましたが、近年は減少傾向にあります。	
	丹後松島、立岩、屏風岩、城嶋、経ヶ岬などの景勝地に恵まれるなど自然豊かな地域を形成しているほか、神明山古墳などの歴史的な資源も有しています。丹後古代の里資料館、てんきてんき丹後、碓高原、宇川温泉などの観光施設、袖志の棚田などの観光資源が点在しています。	

### (2) 地域拠点の方針

項目	方針
地域拠点	丹後庁舎周辺の市街地を住宅地として、生活サービス機能を維持・充実し、便利で暮らしやすいまち中空間の形成を図ります。 丹後半島における観光等のネットワーク拠点や海業と、地域内への生活機能を提供する拠点の形成を目指します。 地域生活するために必要なサービスや施設など都市機能の維持向上を図ります。

### (3) 地域土地利用方針・取組

項目	内容
土地利用	海の京都「琴引浜・間人交流地区」、「丹後の立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海岸景観」など美しい沿岸部の自然景観を活用した、丹後半島における観光等のネットワーク拠点の形成を目指します。 商業機能の集積を促し、地域活力向上の促進と良好な住環境の形成を図ります。
道路交通網	生活機能を維持確保し、地域拠点と地域内の交通機能の向上を図るため、国道及び主要地方道等の整備促進を関係機関と調整を図ります。 (主) 浜丹後線(国道178号)上野平バイパスの整備及び国道178号(袖志工区)の拡幅整備を関係機関と調整し促進します。 (一) 間人大宮線丹後弥栄道路(丹後工区)の整備を関係機関と調整し促進します。 災害に強い強靱な道路ネットワークの構築又は観光振興に資する国道178号白南風トンネル(袖志地区)の拡幅又はバイパス化等について関係機関と調整を図ります。
都市機能施設、産業、環境	宇川地域に多世代が交流する拠点の整備を推進します。 豊栄山村広場等の活用を促進します。 景観資産「丹後の立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海岸景観」の保護保全 「山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク」、道の駅「てんきてんき丹後」、「丹後古代の里資料館」を活用した観光を促進します。
都市基盤	竹野川の河川改修を関係機関とともに促進し、安全で災害に強い市街地の形成を図ります。

### ■ 地域の主な取組

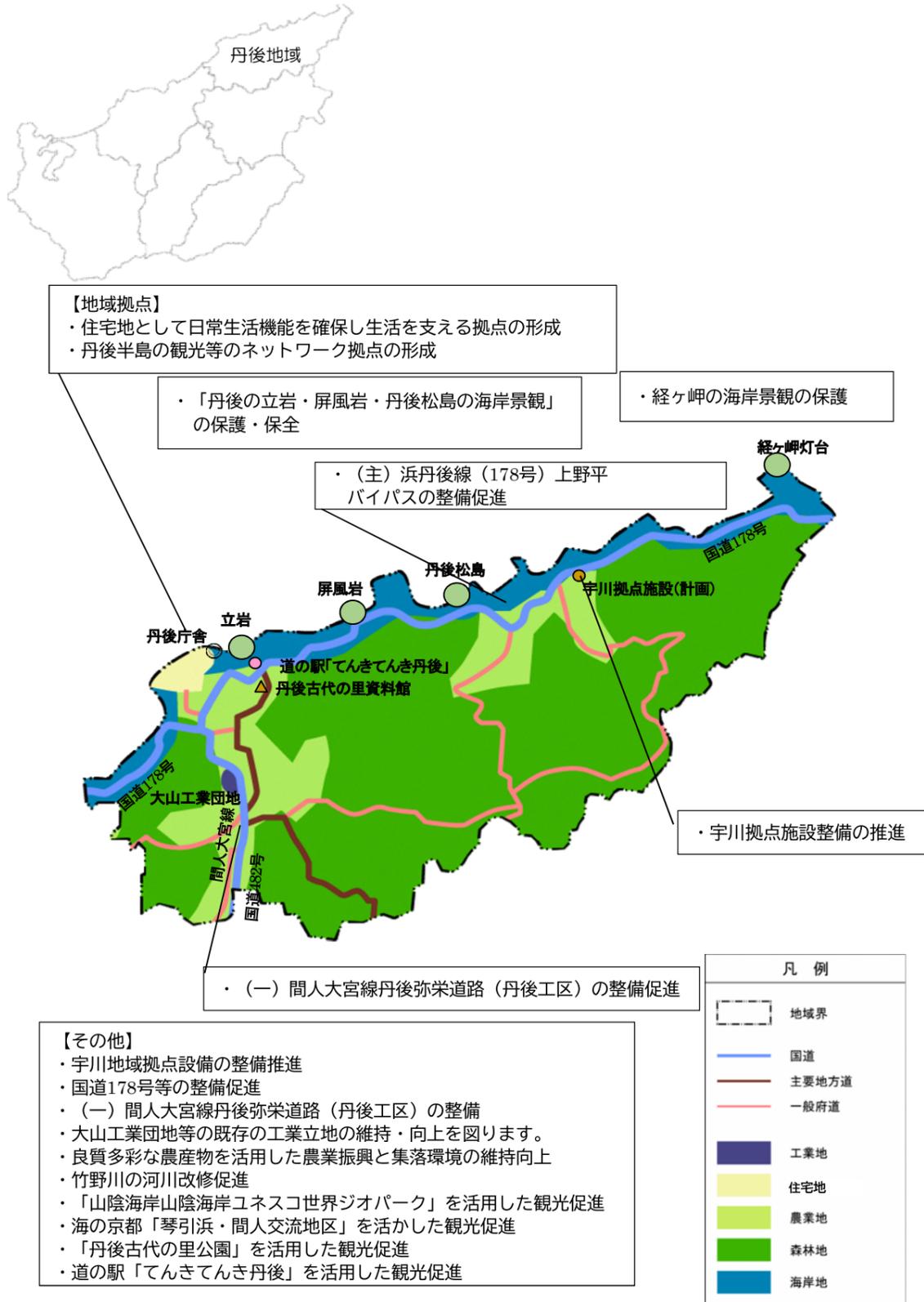


図 丹後地域の土地利用図

## 5) 地域別構想 (弥栄地域)

### (1) 地域の概要

項目	内容	
人口 (国勢調査)	平成27(2015)年	5,058人
	令和2(2020)年	4,671人 387人減少(△7.7%)
面積	80.32 km <sup>2</sup>	
地形及び立地状況等	<p>弥栄地域は本市の東部の中央に位置し、国道482号や(主)網野岩滝線などが他地域や市外と連絡しています。</p> <p>竹野川の周囲に広がる平地部は大半が農地として利用されており、山地の際に集落が点在し、国道482号沿道から市民局にかけて市街地が形成されています。</p> <p>近年(主)網野岩滝線沿いに商業施設が設置され、一定の集客力を確保しています。</p> <p>中心的な集落地は、市民局・市立弥栄病院・老人保健施設などを核として形成されていますが、そのほかには集落が点在しています。</p> <p>地域の中心的な地域の中央部には竹野川が流れ、まちの骨格を形成しているほか、溝谷川や野間川などが流れ、うるおいのあるまちを形成しています。</p>	
地域の特徴	<p>弥栄地域の大半は山地部で占められていますが、野間などの良好な自然環境が水源となって、良質な農産物が栽培されています。</p> <p>良質な農産物を産出する地域として知られており、平地部の大半が水田として利用されています。農地のほとんどでほ場整備事業が進められており、農地の保全が図られています。</p> <p>地域内には観光の拠点として、道の駅丹後王国「食のみやこ」が立地するほか、自然体験、スポーツ拠点としての「京丹後森林公園スイス村」などが立地しており、多くの観光客が訪れています。</p> <p>古代からの黒部銚子山古墳や大田南古墳等や、細川ガラシャ隠棲の地などの歴史的な資源が有しています。</p>	

### (2) 地域拠点の方針

項目	方針
地域拠点	<p>弥栄庁舎周辺の市街地を住宅地・医療拠点として、生活サービス機能を維持・充実し、周辺住宅地での便利で暮らしやすいまち中空間の形成を図ります。</p> <p>竹野川の自然環境や田園集落の景観を保全しつつ、地域内への生活機能を提供する拠点の形成を目指します。</p> <p>地域生活するために必要なサービスや施設など都市機能の維持向上を図ります。</p>

### (3) 地域土地利用方針・取組

項目	内容
土地利用	<p>商業機能の集積を促し、地域活力向上の促進と良好な住環境の形成を図ります。</p> <p>平地等の農業地、国営農地開発地では、農業振興を基本とした土地利用を図ります。</p>
道路交通網	<p>生活機能を維持確保し、地域拠点と地域内の交通機能の向上を図るため、国道及び主要地方道等の整備促進を関係機関と調整を図ります。</p> <p>(主)網野岩滝線の外村バイパス及び弥栄大橋歩道橋の整備を関係機関と調整し促進します。</p>
都市機能施設、産業、環境	<p>市立病院の良質で高度な医療機能の維持・確保に努めます。</p> <p>地域住民の健康増進のため、弥栄総合運動公園の活用を促進します。</p> <p>既存市街地の空き家や空き地を有効に活用し、ゆとりあるまち中空間の形成を図ります。</p> <p>良質な多彩な農産物を活用した農業の振興と集落環境の維持・向上を図ります。</p> <p>野間地域などの自然・歴史環境を活かすとともに、水辺公園やさか野を中心としたうるおいのある地域環境を形成します。</p> <p>道の駅丹後王国「食のみやこ」を活用した観光を促進します。</p> <p>「京丹後森林公園スイス村」や「グリーン・ツーリズム」を活用した観光を促進します。</p>
都市基盤	<p>竹野川の河川改修を関係機関とともに促進し、安全で災害に強い市街地の形成を図ります。</p>

### ■地域の主な取組



#### 【地域拠点】

- 生活機能を提供する拠点の形成
- 田園や竹野川の自然環境を活かした交流拠点
- 市立弥栄病院の医療機能の維持

・道の駅丹後王国「食のみやこ」を活用した観光を促進



・(主)網野岩滝線の外村バイパスの整備促進

#### 【その他】

- 竹野川の河川改修促進
- 野間地域などの自然・歴史環境の保全
- 水辺公園やさか野を中心とした地域環境の保全
- 「京丹後森林公園スイス村」を活用した観光促進
- 「グリーン・ツーリズム」を活用した観光推進
- 弥栄総合運動公園の活用を促進します。
- 良質な多彩な農産物を活用した農業振興と集落環境の維持向上

凡例	
	地域界
	国道
	主要地方道
	一般府道
	住宅地
	農業地
	森林地

図 弥栄地域の土地利用図